

琉球新報 2017年8月18日

不退転

第 72 号
東江中学校
校長 神元 勉

熱中症を予防しよう
熱中症のときには、上手な水分・塩分補給がポイントです。水分だけでなく塩分も補給することで、症状の改善が期待できます。塩分の補給には、塩分を含む飴・タブレットや梅干などもよいでしょう。熱中症の症状が見られる際、意識がはっきりしない場合は大至急医療機関へ。意識がはっきりしている場合は、涼しい日陰や屋内で適切な水分・塩分補給を行い、安静にすることで多くは改善します。いつもと違うなと感じたり不安があったりするときには医療機関を受診しましょう。

35度超 1カ月で13回

県内記録的猛暑

県内は今夏、記録的な暑さが続いている。沖縄気象台の県内28の観測地点のうち、17日までに7カ所で観測史上最高気温を更新した。昨年までの31年間で計64回だった猛暑日が、今年は既に13回に上る。沖縄気象台の予報では、この先もしばらく平年より高い気温が続く。「この暑さ、もうたまらん」。そんな声が聞こえてきそうだ。

(29面に関連)

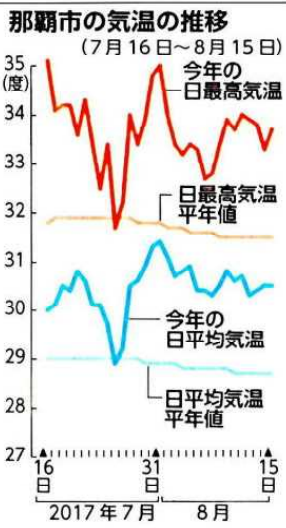
7月以降、平年を上回る気温が続き、8月上旬は統計を開始した1961年以降、最も高い平均気温となった。7月30日に36度を観測した伊是名村を皮切りに、うるま市の宮城島や北大東空港などで相次いで史上最高値を塗り替えている。

7~8月 観測最高7カ所

沖縄気象台によると、四方を海に囲まれる沖縄は、本州内陸部と違って35度を超える猛暑日は稀だ。昨年は6回、一昨年はゼロだった。それが今年は、7月に那覇市の2回を含む4回、8月は9回。17日も久米島空港で35.1度を観測した。1920年から記録が残る那覇市は、昨年までで3回だった。

今夏の「記録的猛暑」の背景には、太平洋高気圧とチベット高気圧という、二つの高気圧の位置がある。沖縄気象台によると、いずれも平年より沖縄の近くで張り出しが強く、晴れる日が多かった。日射で大気が暖められ、気温が上昇しているという。

県のまとめでは、7月末から2週続けて100人以上が熱中症を発症した。8月上旬には、4年ぶりに死亡者が出ている。沖縄気象台は17日、「向こう1カ月の平均気温は高い」とする予報を発表した。中でも期間の前半は「かなり高くなる」見込みで、熱中症などに注意を呼び掛けている。



県のまとめでは、7月末から2週続けて100人以上が熱中症を発症した。8月上旬には、4年ぶりに死亡者が出ている。沖縄気象台は17日、「向こう1カ月の平均気温は高い」とする予報を発表した。中でも期間の前半は「かなり高くなる」見込みで、熱中症などに注意を呼び掛けている。

熱中症ゼロへ

<https://www.netsuzero.jp/learning/le01/case01-02>

熱中症対策!!

水を飲んで 水分補給! 2に塩分補給!

とで、熱中症を予防しましょう。

また、こまめな水分・塩分の補給は熱中症予防にも有効です。とりわけ1時間を超える長時間のスポーツなどの際には、塩分に加え糖分の入ったスポーツドリンクなどでこまめに水分補給すること、熱中症を予防しましょう。

沖縄タイムス 2017年8月17日

バリケン よちよち成長 名護 愛くるしい親子 話題に



ひな(左)を育てるバリケン=名護市許田

【名護】許田区の内海で放し飼いにされ、体を寄せ合うバリケンの親鳥とひなが「超かわいい」と地域で話題になっている。近所の翁長ヨシ子さん(84)が朝夕の餌をあけていたが、体調不良のため現在は近くに住む娘の大熊みどりさん(64)が世話をしている。

7月21日、雌のバリケン1羽が8個を産卵し、1羽が育っている。「酉年に1羽でもふ化したのでめでたい」と目を細める。

「よちよち歩きのひなだが逃げる時は親鳥の後か、腹部の下に隠れるなど行動が素早い。親鳥は「ピー子」と名付けられ、大熊さんが呼ぶと寄ってくるが、見知らぬ人には威嚇する。その間、ひなは親の足元で「ピーピー」とまねて鳴いている。

現在、ほかに雄のバリケン2羽と雌のアヒル1羽が内海と翁長さん宅の庭を行き来している。ピー子はひなど一緒に小屋に入ったまま。大熊さんは「このひなも、いずれ内海で遊ぶと思う。このまま大きくなって産卵してほしい」と期待した。(玉城学通信員)